

BPSD軽減に資するケアの 在宅サービスへの適用可能性に関する調査

協力のご相談

認知症介護研究・研修東京センター



<https://youtu.be/ND5k1dnxLUo>
こちらから動画視聴も可能です

BPSDを軽減し、再発を防止するケア(BPSDの軽減)

【令和4年度】

- BPSDを軽減し、再発を防止するケアのあり方を検証する
- 特養・老健・GHを対象に①BPSDの客観的評価、②全人的アセスメント、③Plan-Do-Check-Act (PDCA)サイクルで検証を繰り返すチームアプローチの3つの要素に準じたケアを行う介入群と通常のケアプランに基づくケアを行う対照群とのクラスターランダム化比較試験を実施
- 3つの要素に準じたケアを行うことがBPSDの軽減に資することを実証(別添4参照)

【令和5年度】

- BPSDを軽減し、再発を防止するケアの在宅サービスへの活用可能性を検討する
- 在宅サービス事業所を対象に①BPSDの客観的評価、②全人的アセスメント、③Plan-Do-Check-Act (PDCA)サイクルで検証を繰り返すチームアプローチの3つの要素に準じたケアを行う介入を行い前後比較試験を実施

「BPSDの客観的評価」「全人的アセスメント」「PDCAサイクルで繰り返すチームアプローチ」の3つの要素に準じたケアを行う介入群と通常ケアを行う対照群のクラスターランダム化比較試験で効果を検証

■ 介入群の行ったプログラム

1) 研修の受講 (YouTubeにて1時間の動画視聴)

2) 客観的評価

①BPSD25Q ②short QOL-D

3) BPSDの背景要因に関するアセスメントと分析

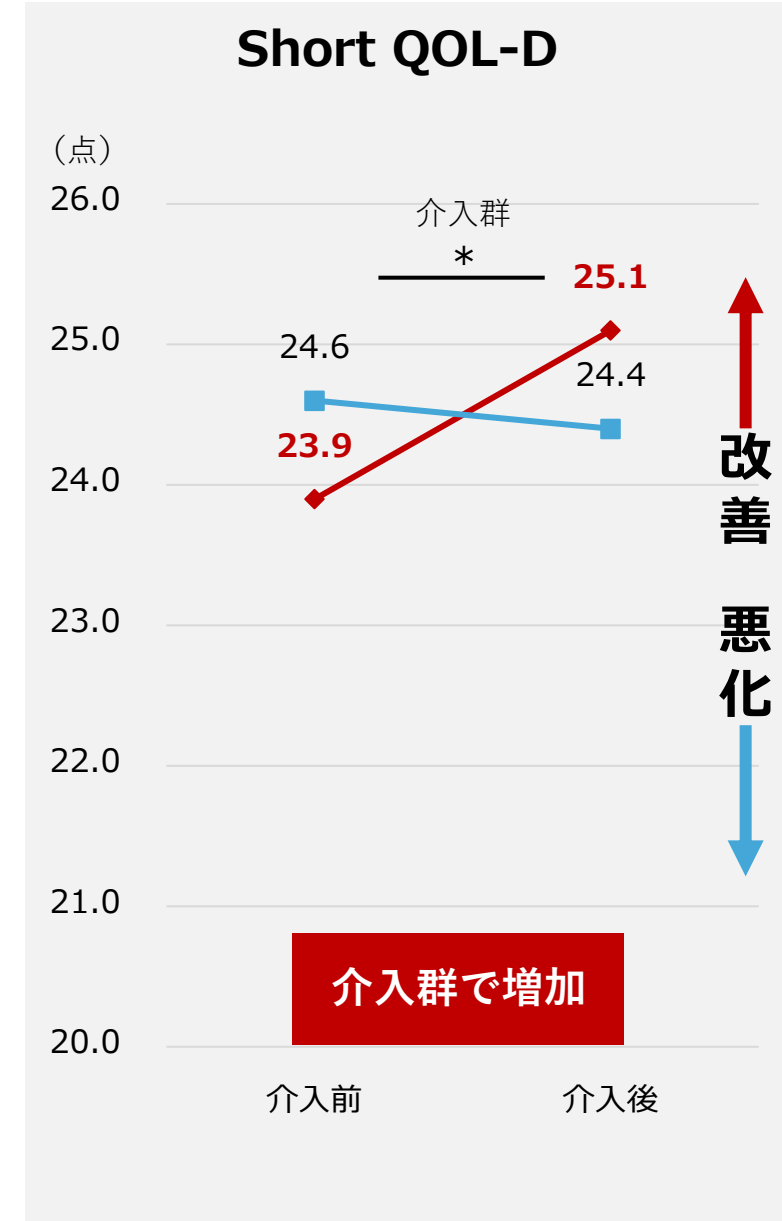
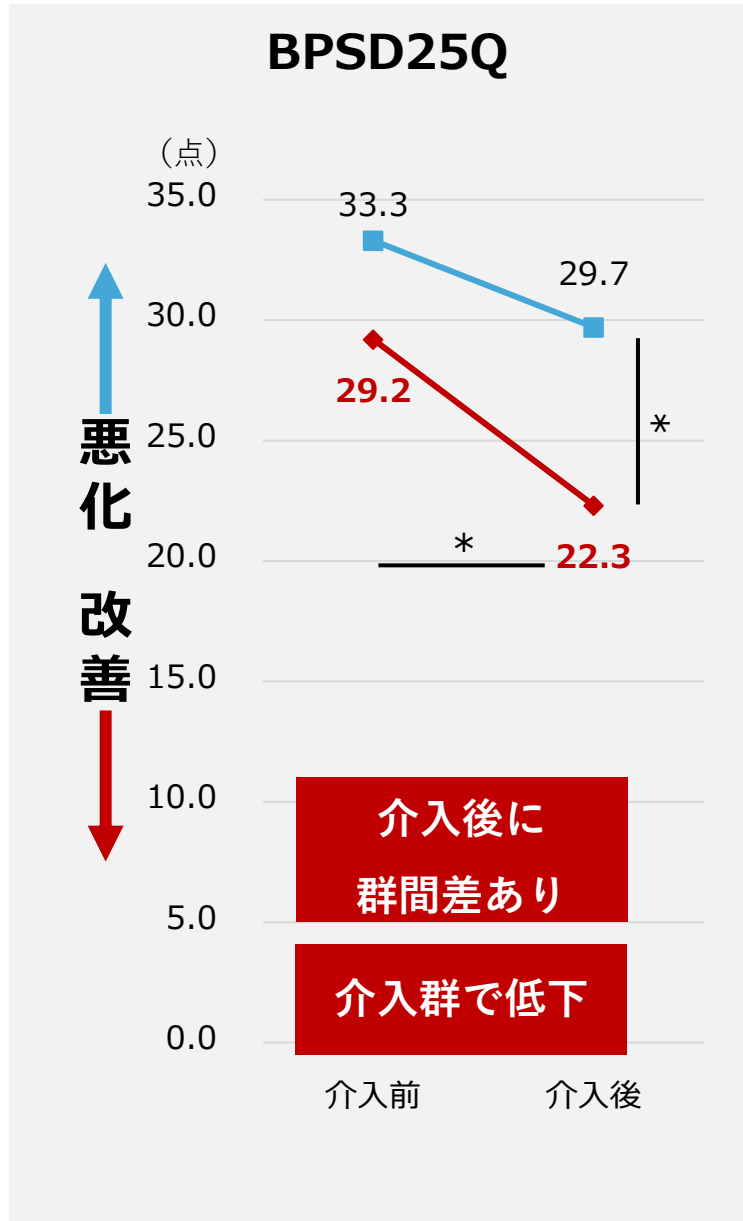
4) チーム会議およびケア視点の統一

5) ケア計画の立案およびケアの実施

6) 再評価

1連の流れを2~4週間かけて実施

計8週間の介入



在宅サービス事業所等において

①BPSDの客観的評価

②全人的アセスメント

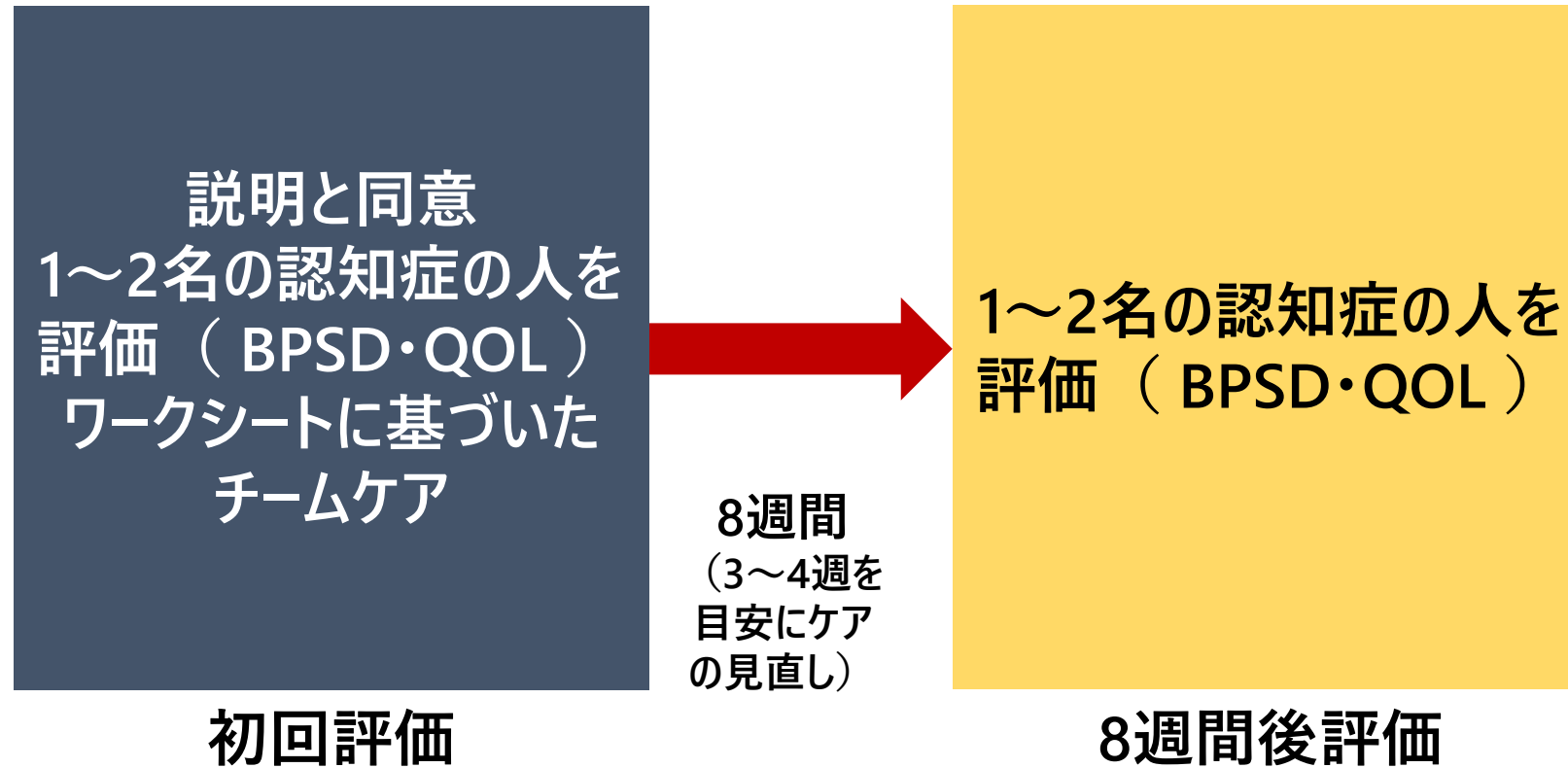
③Plan-Do-Check-Act (PDCA)サイクルで検証を繰り返す

チームアプローチ

①-③をワークシート(案)(スライド6参照)を用いながら行うことで

BPSDが軽減するか検証することを目的としている(*ワークシートは微修正の可能性あり)

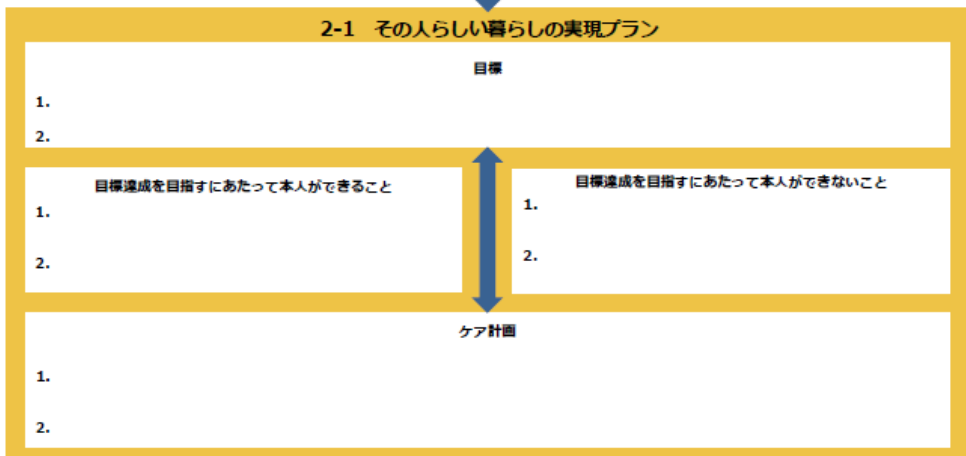
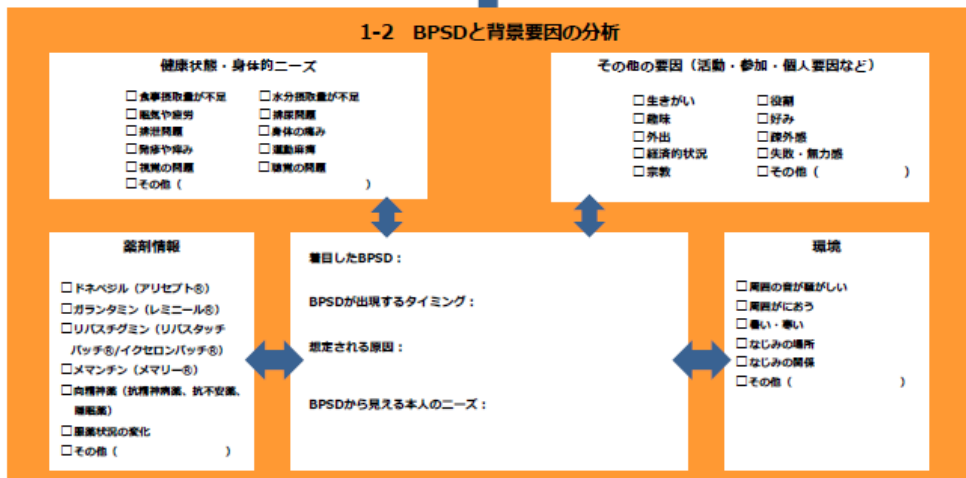
■「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」にかかる調査の概要について



「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」の方法について

年齢： 歳	開催日： 年 月 日	チームメンバー：計 名
認知症の原因疾患：アルツハイマー型・レビー小体型 前頭側頭型・血管性・その他（ ）	看護師 名・准看護師 名・介護福祉士 名	介護スタッフ 名・介護支援専門員 名・相談員 名
現病歴：（ ）	理学療法士 名・作業療法士 名・言語聴覚士 名	その他（ 名 名 名）

評価日	評価者	No.	本人の声（+チェックリストを用いたインタビュー）	評価者	普段の言動や行動



研究デザイン: 前後比較試験

対象サービス: 通所介護、通所リハビリテーション、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護（1事業所につき、1ないし2名の認知症の人）

対象者の選定基準: 取り込み基準は、1) 認知症の診断を受けている者（鑑別診断の必要なし）、2) BPSD25Qにて重症度得点が3点以上の項目がある者、のすべてを満たす者。除外基準は、1) せん妄の診断・治療のある者、2) 研究開始2週間前に薬の変更があった者、のいずれかに当てはまる者

対象者数: 各群50施設、計200名の認知症の人

介入期間: 12～2月の8週間

介入方法: チームでワークシートを用いてアセスメントやケア計画立案し、ケアを実施、3～4週間おきに見直し。ワークシートの使い方に関しては研修（動画）を実施

アウトカム: BPSD25Q、Short QOL-D

解析: t検定（すべての事業所の結果をまとめて解析）

■「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」の方法について(アンケート1)

対象

- 8週間の介入を終えた職員、計100-200名

方法

- ケア要件に基づいたケアの実施状況等に関する自記式アンケートを実施する
- アンケートのタイミングは、介入終了直後とする

内容

ケアの実施状況について(回答は「行っていた」もしくは「行っていない」)

- 利用者にBPSDが生じた際に、BPSD評価尺度を用いて評価をしていましたか
- 利用者にBPSDが生じた際に、BPSDの原因をアセスメントし、その結果を踏まえたケア計画の立案をしていましたか
- 利用者にBPSDが生じた際に、アセスメント、ケア計画の立案、ケアの実行、再評価、のプロセス(PDCAサイクル)をチーム(2名以上)で行っていましたか

組織の状況について(回答は「はい」もしくは「いいえ」)

- 組織の理念(ビジョン)をケアに関わる人全員が共有していますか
- スタッフがかけがえのない人材として、経営者から価値を認められていると感じますか
- 現場のスタッフたちが自分たちの責任で判断できるよう一定の裁量権を与えられ、実践できるよう支援されているような運営・管理が行われていますか
- パーソン・センタード・ケアを実践できるように、優れたスキルを身に付けられるよう支援していますか
- 認知症の人を含め、誰でも利用できる物理的・社会的環境がありますか
- 認知症の人たちや現場のスタッフのニーズや関心を把握し、それに基づいて継続的にケアの質を向上させるための仕組みが機能していますか

■「BPSDを軽減し、再発を防止するケア」の調査項目とメリット・デメリット

調査項目

1. 認知症の人の基本情報
2. BPSD・QOL評価(2回)
3. ワークシート(案)
4. 職員のアンケート

メリット

- ケアの実施状況の振り返りが可能
- 職員が同じ視点でケアができる
- 認知症ケアの質向上のきっかけ

調査にかかる負担

- 対象者への説明と同意(動画を準備いたします)
- 検討・記録の時間を含めて合計90分程度を要する(認知症の人1名の協力につき、施設に14,000円の協力金贈呈)

■ スケジュール(予定)

- 募集期間 11月27日(月)～12月7日(木)
- 介入期間 12月18日(月)～2月9日(金)
- 調査結果評価 2月12日(月)13日(火)
- 評価結果返送 2月14日(水)～2月16日(金)
- 分析結果公表 令和6年4月10日(予定)

FAX	03-3334-2156	認知症介護研究・研修東京センター
mail	rouken@dcnet.gr.jp	

令和5年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
 BPSDの予防・軽減を目的とした認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究
 BPSD軽減に資するケアの在宅サービスへの適用可能性に関する調査
 事務局担当者宛

調 査 協 力 届

標記調査に協力します。

○ 回答に協力いただける認知症の人の数 (いずれかに☑) □1名 □2名

※ 調査協力金の振込にも必要ですので、全ての項目をご記入ください。

法人名		施設名	
〒		電話番号	
住所			
担当者氏名 (よみがな)			
担当者 メール			

- 申し込み
左記、調査協力届に必要な事項を記入しFAXまたはメールにて返送ください。

- 問い合わせ先
認知症介護研究・研修東京センター
BPSD軽減担当：中村・橋本
rouken@dcnet.gr.jp
TEL:03-6743-2165

- 認知症の人2名を対象としていただけの場合も、窓口となる1名のお名前を記入ください。事務担当の方ではなく、調査に回答いただく担当者のお名前を記入ください